

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 4 年 9 月 8 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02391

研究課題名（和文）社会変容と民衆暴力

研究課題名（英文）Social transformation and Violence of the people

研究代表者

須田 努（Suda, Tsutomu）

明治大学・情報コミュニケーション学部・専任教授

研究者番号：70468841

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000 円

研究成果の概要（和文）：日本近世・近代・現代、沖縄現代、朝鮮近代、ベトナム近代、フランス近代、アイルランド現代、を研究領域として、調査・研究を実行し、成果を得た。その成果は、以下の構成で2023年度公刊予定である。総論：「民衆暴力を論じる意味」、「宗教・思想を背景とした民衆暴力」：、「地域社会内部で発動される民衆暴力」、「民衆暴力をめぐる表象・言説」

研究成果の学術的意義や社会的意義

本企画では、専門集団・国家による組織化された戦争やテロではなく、普通の人びとが行使する暴力（民衆暴力）の問題を歴史の文脈から分析する。研究フィールドは日本（北海道・沖縄）近世・近代・現代、朝鮮近代、ベトナム近代、フランス近代、アイルランド近代とする。

民衆暴力が行使されたのち、被害と加害が同居する地域社会において、それがいかに記憶・記録され語られていったのか、という問題も考察する。これにより、民衆の多様な側面、矛盾を含んだ諸要素を明らかにすることで、低迷している民衆史研究を活性化させるとともに、「現代歴史学」の方向性にも一石を投じることができる。

研究成果の概要（英文）：We researched the following as a study domain. Japanese early modern times, modern times, Okinawa modern times, Korea modern times, Vietnamese modern times, French modern times, Irish present age. Then I will publish it. That constitution is as follows.. The general remarks.: "A meaning to discuss the people violence", : "religion, people violence that assumed thought a background:", : "community people violence exercised inside", : "representation, verbal explanation over the people violence"

研究分野：日本近世・近代史

キーワード：民衆暴力 社会変容 思想・宗教 地域社会 表象

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

9.11 の同時多発テロを契機に、米国は「テロとの戦い」を宣言した。20 年以上が経過したが、イスラム過激派は分派しつつ、その行動はさらに暴力化し、欧米諸国からこれに参加する若者も出ている。テロという暴力が社会に食い込み始めているといえる。リーマンショックから始まる世界同時不況以降、15 年もの間、欧米・日本の経済低迷は続く一方、富は多国籍企業 GAFA に集中している。こうした経済状況と富の偏在は一般民衆を直撃した。

貧困と将来への不安が広がる中、家庭内での暴力は不可視化されてゆき、余裕のない非寛容の社会が形成されている。また、治安の悪化を正当性として、防犯カメラの設置はすすみ、それがあたりまえとされる監視社会が出来上がった。トランプ政権の 4 年間による、社会の分断、反知性主義の嵐は米国に限らず、欧州・日本にも 影響をおよぼし、それらを背景とするネット内でのフェイク、ヘイト、排他主義の様相、つまりことばの暴力、暴力の表象は、際限ない様相となっている。

2. 研究の目的

本共同研究では、専門集団・国家による組織化された戦争やテロではなく、普通の人びとが行使する暴力(民衆暴力)の問題を歴史の文脈から分析する。研究フィールドは日本(北海道・沖縄)近世・近代・現代、朝鮮近代、ベトナム近代、フランス近代、アイルランド近代とする。

そして、民衆暴力が行使されたのち、被害と加害が同居する地域社会において、それがいかに記憶・記録され語られていったのか、という問題も考察する。これにより、民衆の多様な側面、矛盾を含んだ諸要素を明らかにすることで、低迷している民衆史研究を活性化させるとともに、「現代歴史学」の方向性にも一石を投じることができる。

3. 研究の方法

21 世紀 わたしたちを取り巻く世界には、社会不安からおこる非寛容の風潮と不可視化されつつ広がる家庭内暴力、監視社会内でのストレス、ことばの暴力、歴史的解決されない、もしくは歴史に逆行する分断、などなど、暴力 が日常の中で顕在化している。このような多元的な状況を意識しつつ、本共同研究では、普通の人びとが 行使する暴力の問題、民衆暴力をテーマとして設定した。その領域は日本史に限定せず、朝鮮近代史・ベトナム史・フランス史・アイルランド史と幅広く設定した。また、実証レベルでは文芸・演芸作品も史料として活用し、聞き取り調査も多様した。

本共同研究では、それぞれの対象地域での史料調査・現地踏査を重視し、研究領域の相互乗り入れを行った。また、毎年度、複数回のカンファレンスを行い、各人の個別研究の進捗状況、方向性を確認してきた。合同調査は、台湾・フランス・イギリス・アイルランド(北アイルランド)、静岡北部地域、会津地域・神奈川地域・沖縄地域・成田地域に及んだ。本研究「社会変容と民衆暴力」の協同研究成果は以下となる。

4. 研究成果

以下のような、目次項目により、2023 年度に成果を刊行する予定である。

I 総論 いま、歴史学の領域から民衆暴力を問うことの意味 須田努

1990 年代以降における、民衆暴力に関連した先行研究を整理し、現在それを問うことの意味を考察する。

II 宗教・思想を背景とした民衆暴力

1. 1 須田努 日本近世史 尊王攘夷 天狗党の乱

元治元年(1865)に発生した天狗党の乱に直面した民衆の動向と、この乱によって派生した在地社会内部の暴力の問題を考察する。

2. 2 武内房司 ベトナム近代史 宗教統制と民衆暴力

19 世紀、ベトナム北部地域で派生した新興宗教とそれによっておこる、民衆間のトラブルの様相を解明する。

3. 3 大峰真理 フランス近代史 フランス革命と宗教対立

フランス革命に抵抗したナント地域の状況を整理し、キリスト教信仰の根強い地域住民の意識と、それを護るための闘争の問題を具体的に明らかにする。さらに、地域社会は「ナントの反乱」をどう語っていったのかをも考察する。

4. 4 中嶋久人 日本現代史 成田闘争をめぐる思想と民衆暴力との関係

成田闘争の様相を地域住民の意識と、外からはいつてきた学生たちの思想との関係

から、闘争が暴力していく様相を具体化する。

5. 5 崎山直樹 北アイルランド現代史 プレグジットと北アイルランド社会
プレグジットの実行が決定された。これをめぐって北アイルランドとくにベルファーストにおいて宗教対立が激化するおそれがあるが、まず、当該地域の人びとが、プレグジットをどう意識しているのかを分析する。

II 地域社会内部で発動される民衆暴力

1. 1 宮間純一 日本近代 第二次長州戦争における周防大島の状況
第二次長州戦争の際、周防大島は戦場となった。これに巻き込まれた、在地住民はこの戦闘をいかに意識し、語っていったのかを分析し、この経験から同島の若者が奇兵隊に入隊する経緯も明らかにする。
2. 2 檜皮瑞樹 日本近代 アイヌと移民
明治維新後、北海道に移住した民衆のアイヌ民族に対する暴力の様相を具体的に明らかにする。
3. 3 高江洲昌哉 沖縄現代 コザ暴動
コザ暴動について、これを経験した方々のインタビューを分析し、それがその後、どう語られていったのかを明らかにし、沖縄の女性達にとって、コザ暴動とはなんであったのかも考察する。
4. 4 趙景達 朝鮮近代 日本の植民地支配と被差別民への暴力
植民地支配下において、日本から持ち込まれた暴力が被差別民にどう影響を及ぼしたのかを考察する。

III 民衆暴力をめぐる表象・言説

1. 1 中臺希実 日本近世 歌舞伎に表象される暴力
江戸時代に創作された鶴屋南北などの歌舞伎作品のなかで、家庭内暴力、男性から女性への暴力がどう描かれているかを分析する。
2. 2 伊藤俊介 日本近代 真土村事件の記憶と語り
明治11年(1878) 神奈川県大住郡真土村で発生した、地主一家殺害事件が、文学作品や演劇等でいか語られたのかを分析する。
3. 3 石田沙織 日本現代 戦後、新聞にみる家庭内暴力
高度経済成長期に発生した家庭内暴力が、当時のメディアでいかに報道されていたのかを分析し、現代社会との相違を考察する。
4. 4 加藤圭木 朝鮮近代 在日朝鮮人への差別 暴力
ヘイトスピーチをとりあげ、いまだに続くその暴力性と、その背景を考察する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 9件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 趙景達	4. 巻 728
2. 論文標題 「三・一運動における民衆のナショナリズム」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『大原社会問題研究所雑誌』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大峰真理	4. 巻 0
2. 論文標題 「重商主義論と特権商事会社」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金澤周作『論点・西洋史』	6. 最初と最後の頁 136-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮間純一	4. 巻 17
2. 論文標題 「『政権交代』と地域—関東の旧幕府領と旧旗本知行所を中心に—」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『明治維新史研究』	6. 最初と最後の頁 77-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高江洲昌哉	4. 巻 20-2
2. 論文標題 書評斎藤憲・榎本喜一『奄美 日本を求め、ヤマトに抗う島—復帰後奄美の住民運動—』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『島嶼研究』	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 990
2. 論文標題 「問われる植民地支配認識——変貌する朝鮮半島と日本」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『前衛』	6. 最初と最後の頁 66-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 0
2. 論文標題 「朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働—「韓国併合」—〇〇年をめぐる日韓の運動から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門——開かれた歴史学への挑戦』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 267-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 86
2. 論文標題 「豆満江の境界史」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『史潮』	6. 最初と最後の頁 76-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 66
2. 論文標題 「朝鮮植民地支配と国境地帯」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『史海』	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 須田 努	4．巻 第84冊
2．論文標題 「排外的ナショナリズムの形成と社会的影響」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 明治大学人文科学研究所『明治大学人文科学研究所紀要』	6．最初と最後の頁 48-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 趙景達	4．巻 876
2．論文標題 「シベリア出兵と米騒動」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『歴史地理教育』	6．最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 趙景達	4．巻 827
2．論文標題 「「独立万歳」の政治文化と民衆」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『歴史評論』	6．最初と最後の頁 32-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 武内房司	4．巻 23
2．論文標題 「清代民衆宗教に見る宗教的回心の諸相」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『アジア民衆史研究』	6．最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤俊介 沼田大輔らとの共著	4. 巻 第30巻第1号
2. 論文標題 「福島県の『食』についての海外の大学生の認識比較」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『福島大学地域創造』	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 891
2. 論文標題 「三・一運動100年から何を学ぶか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴史地理教育』	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮間純一	4. 巻 679
2. 論文標題 「地域における明治維新の記憶と記録」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本史研究』	6. 最初と最後の頁 129-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 706
2. 論文標題 「明治期の対馬と朝鮮半島—朝鮮人漂流民の事例から」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『大原社会問題研究所雑誌』	6. 最初と最後の頁 4-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 趙景達	4．巻 806
2．論文標題 「災害飢饉時における国家と名望家—報告を聞いて」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『歴史評論』	6．最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件／うち国際学会 1件）

1．発表者名 加藤圭木
2．発表標題 「問われる植民地支配認識 - 変貌する朝鮮半島と日本 - 」
3．学会等名 歴史科学協議会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 趙景達
2．発表標題 「外から見た幕末維新期の日本—西欧人と朝鮮修信使の観察から」
3．学会等名 静岡県近代史研究会，（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 伊藤俊介
2．発表標題 「近代史にみる日韓関係」
3．学会等名 福島大学経済経営学類創立95周年記念事業国際シンポジウム「東アジア地域協力と朝鮮半島の展望」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 高江洲昌哉
2．発表標題 「明治10年、与論支庁長河原田盛美の大阪出張について」
3．学会等名 日本島嶼学会
4．発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1．著者名 趙景達	4．発行年 2020年
2．出版社 有志舎	5．総ページ数 423
3．書名 『朝鮮近代の政治文化と民衆運動—日本との比較』	

1．著者名 趙景達	4．発行年 2019年
2．出版社 有志舎	5．総ページ数 460
3．書名 『朝鮮の近代思想—日本との比較』	

1．著者名 須田努	4．発行年 2017年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 216
3．書名 『吉田松陰の時代』	

1. 著者名 須田努	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 271
3. 書名 『三遊亭円朝と民衆世界』	

1. 著者名 趙景達	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 324
3. 書名 『儒教的政治思想・文化と東アジアの近代』	

1. 著者名 伊藤俊介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 pp178 - 197
3. 書名 「近代朝鮮における道路整備の展開過程と民本」趙景達編『儒教的政治思想・文化と東アジアの近代』	

1. 著者名 宮間純一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 pp229-251
3. 書名 「小藩」における旧藩の社会的結合」松尾正人編『近代日本成立期の研究 地域編』岩田書院	

1. 著者名 宮間純一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 pp110-127
3. 書名 「江戸周辺地域における内乱と民衆」奈倉哲三他編『戊辰戦争の新視点 下：軍事・民衆』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	檜皮 瑞樹 (Hiwa Mizuki) (00454124)	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授 (12501)	
研究 分担者	高江洲 昌哉 (Takaesu Masaya) (10449366)	神奈川大学・外国語学部・非常勤講師 (32702)	
研究 分担者	伊藤 俊介 (Itou Shunsuke) (10737878)	福島大学・経済経営学類・准教授 (11601)	
研究 分担者	宮間 純一 (Miyama Jyuniti) (10781867)	中央大学・文学部・准教授 (32641)	
研究 分担者	武内 房司 (Takeuti Fusasi) (30179618)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究 分 担 者	加藤 圭木 (Katou Keiki) (40732368)	一橋大学・大学院社会学研究科・准教授 (12613)	
研究 分 担 者	大峰 真理 (Oomine Mari) (70323384)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究 分 担 者	崎山 直樹 (Sakiyama Naoki) (10513088)	千葉大学・大学院国際学術研究院・講師 (12501)	
研究 分 担 者	趙 景達 (Cho Kyondaru) (70188499)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------